

連続公開講座第38回 社会福祉のフロンティア “精神病院”を捨てた国イタリアから 日本へのメッセージ

2006年6月、日本の法文の中の「精神病院」がすべて「精神科病院」に変わった。(中略)参議院法制局ホームページによると、「精神科医療機関に対する国民の正しい理解の深化や患者の自発的な受診の妨げになっている」のだという。しかしイメージを悪くした真の原因が名前にあるとは思わない。(中略)問題のありかをはっきりさせたいので、敢えて「精神病院」を使うことにした。(『精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本』より抜粋)

日時:2013年11月13日(水) 18:30~20:30

場所:立教大学 池袋キャンパス
14号館5階D501教室

講師:大熊一夫 氏(ジャーナリスト)

日本では、精神病院・精神疾患患者は未だに隠すべき存在として捉えられている。一方、精神病院を全廃することに成功した国がある。それがイタリアである。イタリアは、1978年精神病院の廃止を決定する法律180号(通称「バザリア」法)を可決し、精神疾患患者たちの復権を果たした。同時期、日本では精神病院の増築が行われていた。なぜ、イタリアと日本で反対の方向に制度が進められていったのか。精神病院という、普段日本では隠され、語られることのない問題を、40年前からその最前線で取材してきた大熊氏に語ってもらい、精神疾患患者の復権と精神病院の開放について再考したい。

講師プロフィール:

東京大学教養学部教養学科「科学史・科学哲学」卒。
ジャーナリスト、元朝日新聞記者。1970年に都内の私立精神病院にアルコール依存症を装って潜入入院し、『ルポ・精神病棟』を朝日新聞に連載。鉄格子の内側に横行する患者虐待を白日のもとに。元大阪大学大学院教授。日本の国立大学に初めてできた福祉系講座の初代教授。「バザリア映画を自主上映する180人のMattoの会」代表。著書多数。



問い合わせ先:立教大学 社会福祉研究所
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
Tel: 03-3985-2663 Fax: 03-3985-0279
E-mail: r-fukushi@rikkyo.ac.jp
URL: <http://www.rikkyo.ac.jp/research/laboratory/ISW/>

※大熊氏は著作のなかで、精神科医療機関へのイメージを悪くした原因が名前にあるわけではないと主張し、あえて「精神病院」という用語で統一しています。本講演会では、氏の主張に沿い、「精神病院」を使用します。

入場無料・予約不要